

## 論文の要旨

論文題目 中国語を母語とする日本語学習者による漢字語の認知処理メカニズム  
氏名 早川 杏子  
学位 博士 (学術)  
授与年月日 平成25年3月25日

言語間で共有された語彙の知識が、二言語併用話者の語彙処理にどのような影響を与えるのかという問題に対して、本研究では中国語を母語とする日本語学習者に焦点を当て、L2としての漢字語の音韻処理に関する実験的検討を行った。

中日二言語間において用いられている漢字語は、その書字や意味の異同により、いくつかのタイプに分類できる。本研究では、共通した書字と意味を有する言語間同形同義語、同一の書字が用いられながらも、両言語間では語義の異なる言語間同形異義語、日本でのみ用いられる異形同義語の3タイプの漢字語を検討の対象とした。

音韻に焦点を当てたのは、次の理由による。

第1に、母語の漢字語の知識が読解には読みの理解に有効に利用されるのに対し、聴解ではその豊富な漢字語の語彙知識が効果的に利用されないという報告がある。

第2に、表音文字体系を用いる母語話者に比べ、表意文字を用いる母語話者は、書字に対する依拠度が高く、とりわけ中国語母語話者の語彙の処理過程上においては、音韻が関与するかどうかをめぐる議論が行われている。さらに、表意文字間での語彙処理上における音韻の関与については、いまだ検討が行われていない。

第3に、二言語間の音韻類似性は、他方の言語の語彙処理に対し、促進または抑制や干渉のどちらの影響を与えるのか、共通の表記関係にある二言語の語彙処理の知見と、異表記関係にある二言語の語彙処理の知見とでは異なった結果が得られており、中日二言語間の語彙処理においては、言語間の音韻類似性がどのように影響するのか明らかにされていない。

そこで、本研究では、視覚的および聴覚的に漢字語を呈示し、L2による語彙性判断課題を行った。

実験1では、言語間同形同義語、言語間同形異義語、言語間異形同義語を聴覚的に呈示した。また、L2の語彙処理に与える影響の一つとして親密度を考慮し、親密度の高低による検討も行った。その結果、処理の効率性の指標となる反応時間においては、言語間異形同義語、言語間同形異義語、言語間同形同義語の順に速く、処理の正確さの指標となる誤答率においては、やはり言語間異形同義語、言語間同形異義語、言語間同形同義語の順に誤答率が低く、正確に語認知が行われていた。実験の結果から、文字の入力情報の伴わな

い聴覚処理においても、日中言語間の書字、意味的異同が L2 としての漢字語の処理に影響を与えることが明らかになった。

実験 2 では、異表記間関係にある中国語母語話者と韓国語母語話者に対して視覚および聴覚的に漢字語を呈示し、課題を行った。韓国語の語彙には、漢語が多く使用されているものの、その表記にはハングル文字が用われ、表音表記される。この実験では、L1 の表記特性による語彙処理様式が L2 の語彙処理に対しても影響するかどうかを明らかにするために、視覚・聴覚の入力様式の要因について分析を行った。分析の結果、韓国語母語話者は、視覚・聴覚のどちらの入力様式においても、日中間同形同義語、異形同義語の間の処理速度と誤答率が変わらなかったのに対し、中国語母語話者は、いずれの入力様式においても同形同義語の方が遅延し、誤答率も高くなっていた。なお、実験 2 では頻度に対しても検討を行い、高頻度語のほうが低頻度語よりも速く処理され、頻度は親密度と同様、第二言語学習者の語彙処理に強い影響を与える要因の一つであるということが認められた。また、実験 3 では、ベースラインとして、日本語母語話者に対しても同様の実験を行ったが、視覚・聴覚呈示のどちらにおいても、同形同義語と異形同義語の間に有意な差はなく、日中二言語間における書字・意味的異同による語彙処理の差異は、中国語母語話者による固有の効果であることが明らかになった。

実験 4 では、二言語間の音韻類似性の影響を検討するために、書字に対応する音韻類似度を統制し、同形同義語および異形同義語の視覚的・聴覚的語彙性判断課題を行った。検討の結果、中国語母語話者の場合は、聴覚的に呈示された場合の反応時間には、音韻類似性による主効果は見られなかったが、誤答率においては交互作用に有意傾向が見られ、同形同義語は異形同義語に比べて誤りが多くなる傾向にあった。さらに、視覚的に呈示された場合の反応時間においては、音韻類似性の主効果が見られ、音韻類似度の高い語の方が迅速に処理されることがわかった。また、単語のタイプも有意であり、視覚的処理の場合は同形同義語の方が異形同義語に比べて迅速に処理されていた。この点は実験 2 とは異なる結果ではあるが、実験 2 の刺激語には、錯乱語として無意味語とともに中国語の実在語も含まれていたことから、実験 2 の視覚的処理において同形同義語が遅延したのは、L1 の語彙知識による干渉効果であったことが確認された。したがって、文字入力情報による語彙処理においては、L1-L2 間の書字が共通である場合には、処理が促進されるという先行研究にも符合する結果であった。交互作用が見られなかったことから、言語間の音韻類似性は、単語のタイプに関わりなく影響する要因であることがわかった。

実験 5 では、実験 4 で得られた結果が真に二言語間の音韻類似性の影響によるものかどうかを確認するため、ベースラインとして日本語母語話者に対しても実験 4 と同一の項目と手法を用いて検討を行ったところ、聴覚呈示においては反応時間および誤答率において、主効果、交互作用ともに有意ではなく、日本語母語話者の聴覚的音韻処理には中国語および韓国語を母語とする日本語学習者に見られたような二言語間の音韻類似性の影響による効果は見られなかった。また、視覚呈示においてもやはり反応時間に有意な違いはなかつ

た。誤答率においては音韻類似度の高い語に誤りが多く見られたが、この結果は中国語および韓国語を母語とする日本語学習者とは逆の傾向を示していたことから、漢字語を母語の語彙に有する二言語話者の音韻類似性の影響は日本人とは異なる独立した効果であると考えることができる。

これら5つの実験に一貫していたのは、書字（または音韻）的共有のない異形同義語に比べ、書字・意味（または音韻）的な共有関係にある同形同義語は、音韻処理が遅延したり、誤認が多くなるという事象であった。ただし、処理の迅速さによりも、正確さに対する効果が強く同形同義語に見られたことから、L1語による抑制というよりも、L2書字表象の頑健さと音韻表象の発達の遅れによる非対称性が背景にあると推察される。L1の抑制や干渉によるのであれば、誤答率だけではなく、反応時間に対してもその影響が反映されるからである。したがって、中国語母語話者による日本語の漢字語の音韻処理の困難さは、表意文字を使用することによる書字的依拠の認知様式が、同形同義語のL2音韻に対する十分な注意を損なわせ、間接的にL2音韻表象の形成を阻害している可能性が考えられる。

以上の検討を通して得られた結果から明らかになった、中国語を母語とする日本語学習者による漢字語の認知処理の特徴と本研究の意義は、以下の3点に集約される。

1. 漢字を母語の表記体系とする中国語を母語とする日本語学習者に対し、日本語と中国語の間における書字・音韻・意味的異同が、L2としての漢字語の認知処理に影響を与える。視覚的処理においては、書字の異同が強く関与し、日中間において共通する書字を有する同形同義語は、その他の語彙的特徴を有する語に比べて迅速に処理される。一方で、聴覚的処理においても、書字的異同が間接的に関与し、書字的一致のない異形同義語の方が迅速かつ正確に処理されるが、書字的な一致のある同形同義語は、日本語能力の発達によって、処理の効率性は上がっていくものの、語彙の正確な認知に問題を抱える。
2. 表意文字である漢字を母語の表記体系とする中国語母語話者においても、L2の認知処理過程に音韻符号化が行われている可能性が示唆された。漢字語が視覚的に呈示され、音声的な入力情報がない場合であっても、日中言語間において音韻の類似した漢字語は迅速に処理されていたことがその証左である。このことから、音韻的手がかりの低い表意文字間の場合にも、音韻的手がかりの高い表音文字間と同様に音韻符号化が起きていることが確認された。また、二言語間の音韻的対応がゆるやかな結合関係にある場合、その音韻類似性が他方の言語の処理に対して促進的に作用する。
3. 中国語母語学習者の書字に対する強い依拠が、L2としての日本語の漢字語の音韻表象形成に影響を及ぼしている可能性がある。二言語間に書字的・音韻的共有のない異形同義語は、書字・意味（・音韻）的に共通する同形同義語よりも円滑に処理される。これは、表音文字を母語の表記体系とする欧米諸語間の非同根語の処理とは相対する傾向である。同形同義語や同形異義語のような書字を共通に有する漢字語は、聴覚的に呈示された場合

に、異形同義語に比べ処理が遅延し、誤認も多くなることから、L1 の書字的知識に対する強い依拠が、L2 の音韻や意味に対する注意を不十分にさせ、L2 の音韻表象の発達を遅らせている可能性がある。漢字語の多く含まれる聴解に対して、豊富な漢字語の知識が効果的に貢献しないのは、この同形同義語における書字と音韻の非対称性が背景にあることが推測される。